USHIO

第59期

中間

株主通信

[2021年4月1日～2021年9月30日]
2021年12月発行

CONTENTS

Ushio Now!	P2
社長メッセージ	P4
事業の概況	P6
特集	P8
Topics	P10
決算の状況	P12
株主さまとともに	P14

Ushio Now!　ウシオの今

ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する企業へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo. 1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

ウシオのマーケット

Industrial Process

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

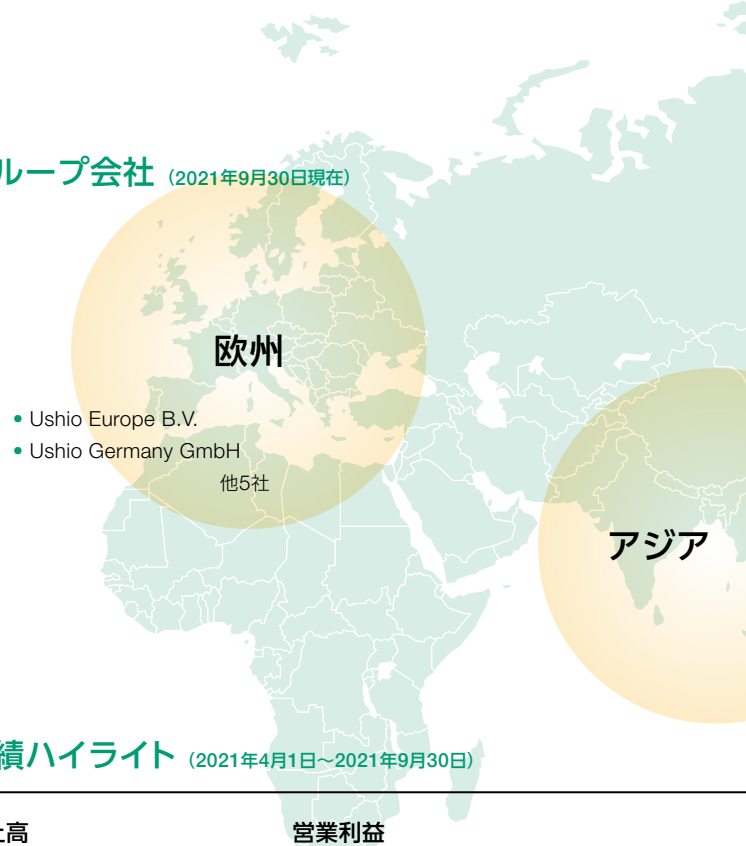
Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、プロジェクション・マッピング、バーチャルリアリティー(VR)／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

Life Science

医療、自然／衣食住環境、農業、セキュリティー、エネルギー、宇宙開発など

グループ会社 (2021年9月30日現在)



- Ushio Europe B.V.
- Ushio Germany GmbH

他5社

業績ハイライト (2021年4月1日～2021年9月30日)

売上高

715億円

営業利益

65億円

光源事業	39.1%
光学装置事業	34.2%
映像装置事業	24.6%
その他	2.1%

本資料では、切捨てによる億円単位で表記しています。

日本

- ウシオ電機株式会社
- ウシオライティング株式会社
- 株式会社ジーベックス
- 株式会社アドテックエンジニアリング

他5社

北米

- Ushio America, Inc.
- Christie Digital Systems USA, Inc.
- Christie Digital Systems Canada, Inc.

他11社

- Ushio Hong Kong Ltd.
- Ushio Taiwan, Inc.
- Ushio Philippines, Inc.
- Ushio（Suzhou）Co., Ltd.
- Ushio Asia Pacific Pte Ltd.
- Ushio Korea, Inc.
- Ushio Shanghai, Inc.
- Ushio Shenzhen, Inc.

他14社

光源事業

露光用UVランプは、巣ごもり需要による液晶パネルニーズの高まり、世界的な半導体需要の増加により稼働率が上がり、リプレイスランプの販売が増加しました。シネマプロジェクター用及びデータプロジェクター用ランプ、OA用ハロゲンランプは新型コロナウイルス感染症の影響から需要が回復し、販売が増加しました。

光学装置事業

5Gの実用化やIoT・AI進展に伴うデータセンター向けサーバー需要の高まりなどから、各種露光装置の販売が増加しました。EUVリソグラフィ技術進展による次世代半導体の量産ニーズの高まりにより、EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源の販売が増加しました。フラットパネルディスプレイ市場においては、中国向け液晶関連装置の販売が増加しました。

映像装置事業

シネマ分野では、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、本格的な需要の戻りはまだ先となるものの、中国市場を中心にデジタルシネマプロジェクターの販売が増加しました。一般映像分野においては、中国や北米市場にて緩やかに回復が進み、映像関連装置の販売が増加しました。

	光源事業 2020.9 ▶ 2021.9*2	光学装置事業 2020.9 ▶ 2021.9*2	映像装置事業*3 2020.9 ▶ 2021.9*2	その他 2020.9 ▶ 2021.9*2
売上高*1	210億円 ▶ **280**億円 ↗	163億円 ▶ **244**億円 ↗	134億円 ▶ **176**億円 ↗	12億円 ▶ **14**億円 ↗
セグメント損益	6億円 ▶ **45**億円 ↗	1億円 ▶ **24**億円 ↗	△19億円 ▶ **△4**億円 ↗	△0億円 ▶ **0**億円 ↗

*1 外部顧客への売上高を記載しています。　*2 第2四半期累計　*3 2020年3月期まで「装置事業ー照明装置他」としていたものを含みます。

社長メッセージ

当中期経営計画で掲げた「基礎固め再挑戦」を着実に推進することで、その後の持続的成長の実現につなげてまいります

代表取締役社長

内藤宏治

2022年3月期第2四半期の業績及び2年目の取り組みについて

中期経営計画2年目となる2022年3月期の第2四半期業績は、売上高は前年同期比37.6%増の715億円、営業利益は前年同期比76億円改善の65億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比84億円改善の65億円となり、前期の新型コロナウイルス感染症拡大による影響から順調に回復してきております。インダストリアルプロセス分野では、IoTや5Gなどの進展を背景に、需要増加や技術革新により設備投資等が旺盛であり、関連する最先端ICパッケージ向け及びプリント基板向け露光装置やEUVリソグラフィマスク検査用EUV光源等の光学装置販売が増加いたしました。また、ビジュアルイメージング分野では、前期に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けましたが、経済活動の回復とともに、映画館や商業施設などの稼働が回復傾向にあり、シネマプロジェクター用ランプや映像装置の販売が増加しました。加えて、構造改革等の実行による固定費削減及び継続した経費抑制効果による収益性の改善が進んだことから、前年同期の損失計上から大幅な業績回復となりました。

また、2022年3月期通期をみますと、巣ごもり需要等に伴い液晶パネルや半導体向けのライン高稼働が続き、UVランプ等の販売が好調に推移し、製品ミックスの改善が進んでいます。また、光学装置等における継続的な原価改善や、全社的な経費抑制などが順調に進んでいることから、2022年3月期の通期業績予想について、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正いたしました。

現在、来期に最終年度を迎える中期経営計画の目標達成に向け、2年目の取り組みとして抜本的な構造改革や成長ビジネスの育成・集中投資などの各施策を着実に推進しております。また、2030年に向けた道筋を描くためのアクションを並行して進めております。足下で起きている半導体等の部材不足や中国での電力制限など様々な環境変化に対して注視しつつ、長期的な視点での価値創造に向け、基盤の再構築を着実に進めてまいります。

統合報告書「Ushio Report 2021」発行について

9月30日に、ウシオグループの長期的価値創造への取り組みを示した統合報告書「Ushio Report 2021」を発行いたしました（詳細はP8-9の特集ページを参照ください）。前々号でご紹介した新中期経営計画の中で掲げた2030年に向けたウシオグループの長期ビジョンやミッションの実現において、重要課題となる「5つの経営のフォーカス」を特定し、それぞれのフォーカスにおける目標及び取り組みをご紹介しております。是非、ステークホルダーの皆さまにご一読いただき、忌憚のないご意見をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

事業の概況

事業環境

エレクトロニクス分野

IoTや5Gなどの進展を背景に、新規投資や高稼働が継続

フラットパネルディスプレイ（FPD）

- 投資主体は液晶からOLEDに移行も、巣ごもり需要により、モバイルやモニター向けなどの液晶パネル生産が好調

半導体、プリント基板等

- IoT、5G進展に伴い需要の増加及び技術革新により高稼働かつ設備投資等旺盛

ビジュアルイメージング分野

新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向

シネマ分野

- 映画館の再開・稼働回復が遅れていた欧米で段階的な回復

一般映像分野

- 中国はコロナ前の水準に回復。欧米は緩やかな回復

OA分野

- 新型コロナウイルス感染症の影響から欧米、アジアで回復

光源事業

放電ランプ／LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用及び産業用光源

ハロゲンランプ

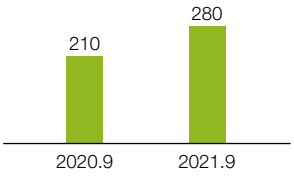
- OA機器用光源
- 産業用ヒーターランプ
- 照明（商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など）

当第2四半期の業績

- 放電ランプ
  UVランプは販売が増加（液晶パネル需要）
  半導体、電子部品向けは堅調に推移（5G、IoTの進展）
  シネマプロジェクター用、データプロジェクター用ランプは新型コロナウイルス感染症の影響から販売は回復傾向
- ハロゲンランプ
  OA機器販売が新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、ランプ販売が増加

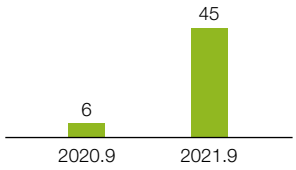
売上高

（億円）



セグメント利益

（億円）



下期の見通し

UVランプは液晶向けの巣ごもり需要が一服し、需給バランス調整の動き。半導体、電子部品向けは堅調に推移
シネマプロジェクター用ランプは欧米市場を中心に順調に需要回復
Care222®（抗ウイルス・除菌用紫外線照射技術）関連装置は、認知度向上が進むことにより引き合い・受注が増加見込み

売上高*

（億円）

2022年3月期通期予想	上期実績	進捗率（%）
580	280	48.3

* 外部顧客への売上高を記載しています。

光学装置事業

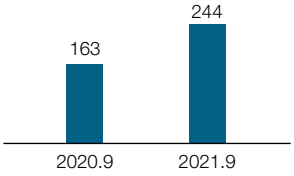
- 半導体、フラットパネルディスプレイ(FPD)、電子部品製造用各種光学装置(露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- 紫外線治療器など医療機器
- EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源

当第2四半期の業績

分割投影露光装置、直描式露光装置は販売が増加(5G、IoTの進展)
EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源関連の販売が増加(次世代半導体の量産ニーズ増加)
液晶関連装置は販売が増加(中国向け投資)

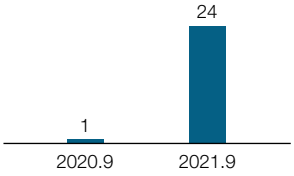
売上高

(億円)



セグメント利益

(億円)



下期の見通し

半導体・電子部品需要の増加に伴い装置需要も堅調に推移
最先端ICパッケージ基板、プリント基板向け露光装置は高水準で推移
EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源は案件が来期にシフトするため、下期は案件が減少するものの、中長期の市場成長は継続

売上高*

(億円)

2022年3月期通期予想	上期実績	進捗率(%)
500	244	48.9

* 外部顧客への売上高を記載しています。

映像装置事業

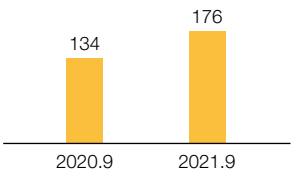
- デジタルシネマプロジェクター(DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティーシステム、プロジェクション・マッピング用プロジェクター

当第2四半期の業績

シネマ、一般映像市場ともに、各国の経済再開に伴い稼働が緩やかに回復。本格的な設備投資にはまだ時間を要するものの、回復に伴い前年同期比販売が増加

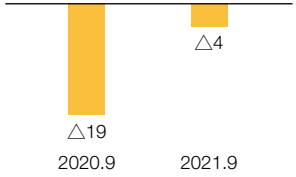
売上高

(億円)



セグメント損失

(億円)



下期の見通し

シネマ、一般映像市場ともに、まだ新型コロナウイルス感染症の影響を受けるエリアがあるも緩やかに回復は進む見込み。本格的な投資回復は、2024年3月期以降になる見込み

売上高*

(億円)

2022年3月期通期予想	上期実績	進捗率(%)
390	176	45.2

特集

ウシオの2030年に向けた道筋

ESG経営の強化とともに、2030年に目指す姿に向けた取り組みを進めてまいります

ウシオは1964年の創業以来、「光」の領域で数々の製品を世に送り出してきました。今後も「光」はウシオの持続的発展のコアであり続け、人々の幸せと社会の発展を支えていきます。そのためにも、社会課題の解決に発想の起点を切り替え、ウシオが解決できるより大きな社会課題を追い求めることで、持続的な企業価値向上を実現していくことができると考えています。

2030年に目指すべきミッション、ビジョンを定め、それに向けてグループ経営体制をシフトチェンジするとともに、ESG経営を根源とした「5つの経営のフォーカス」を策定しました。各フォーカスにおいて2030年からバックキャスティングで目標を設定し、それぞれの取り組みを実行していきます。

2030年に目指すMissionとVision

Mission

あかり・エネルギーとしての光の利用を進め、
人々の幸せと社会の発展を支える

Vision

「光」のソリューションカンパニーへ

社会価値拡大を通じてウシオの経済価値拡大へ

5つの経営のフォーカス

1. より社会的価値が大きい事業の創出

企業の社会的責任が強く求められる現在において、「光のイノベーションカンパニー」として培ってきた光技術を、未来の社会課題解決のために役立てることがウシオの使命であると考えます。

2. ビジョンに近づくための人材の質向上

社員一人ひとりの成長を支援するための、充実した人材育成プログラムを構築・提供することで、グループ全体でビジョンに近付くための人材の質向上を目指します。

3. 成果を上げやすい職場環境づくり

企業理念の実現、2030年ビジョンの達成に向け、会社と社員が貢献しあうエンゲージメントの高い集団を目指します。

統合報告書「Ushio Report 2021」発行

財務・非財務の両面を統合して、ウシオの中長期の成長ストーリーをご紹介しています。事業戦略だけでなく、ウシオの持つ資本は何か、どのように価値を創造していくのか等、新しい未来に向けたウシオの活動がわかる一冊となっていますので、是非ご覧ください。

ポイント 1　**トップメッセージ**　Ushio Report 2021 P8

ウシオの持続的な成長、そして光のソリューションカンパニーとして飛躍するために大切にしている信念と今後の変革の方向性について語っています。

ポイント 2　**5つの経営のフォーカス**　Ushio Report 2021 P24

長期ビジョンを実現するためESG経営を根幹とした5つの重要課題を明確にし、2030年の目指す姿からバックキャスティングして策定した目標(KPI)をご紹介しています。

ポイント 3　**ウシオが挑む社会課題解決への取り組み**　Ushio Report 2021 P30

ウシオが培ってきた光技術を、未来の社会課題解決のためにどのように役立てていけるのか。より大きな社会課題解決に挑むプロジェクトをご紹介しています。

当社ホームページよりご覧いただけます。
https://www.ushio.co.jp/documents/ir/library/ushioreport/ushioreport_2021_j.pdf

4. 持続的な環境負荷低減

長期的な視点に立ち、環境負荷低減につながるような取り組みをサプライチェーンまで含めて行っていきます。

5. 強固な経営基盤の構築

1から4の経営のフォーカスを支え、経営基盤を強固なものにしていきます。

Topics 2021年6月以降のニュースをサマリーでご紹介します。

社会／環境

- 「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同を表明 PICK UP
- 地球と宇宙の食の課題解決を目指す共創プログラム「SPACE FOODSPHERE」に参画
- 第94回日本産業衛生学会にて「産業衛生技術部会部会長表彰」受賞（エキシマランプによるニコチンの分解）
- 「第7回女性技術者育成功労賞」受賞 PICK UP

PICK UP

「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同を表明

当社は、金融安定理事会（FSB）により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言への賛同を表明しました。今後、TCFDの提言に基づき、気候変動が当社事業に及ぼすリスクと機会を分析し、経営戦略に反映するとともに、関連する財務情報・経営情報の開示を進めていきます。

当社は地球環境との共生が企業としての重要課題の一つであると認識しており、中でも気候変動リスクへの対応は長期的な視野で捉える必要があると考えています。ウシオが設定したグループ全体の中長期的な温室効果ガス削減目標は2019年6月に「Science Based Targetsイニシアティブ」から認定されています。これはパリ協定の産業革命時比の気温上昇を2℃未満に抑えるという「2℃目標」を達成するための科学的根拠に基づいていることが認定されたものです。

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

PICK UP

「第7回女性技術者育成功労賞」受賞

当社の事業統括本部 システムソリューション事業部 光プロセスBU 設計技術第一部 部長の太田 尚樹は、2021年8月25日、一般社団法人技術同友会が主催する「第7回女性技術者育成功労賞」を受賞しました。

太田は当社のダイバーシティ推進方針の下、光学装置関連技術部署の部長を務め、技術者育成委員会やダイバーシティプロジェクトにも参画。技術者の育成やダイバーシティ&インクルージョンの推進に携わり、性別や国籍など様々な属性にとらわれることなく、多様な人材が活躍できる風土・職場環境づくりに率先して取り組んできました。

その結果、女性技術者にとって働きやすい職場環境が整い、技術部門以外からの異動や当社初となる外国籍女性技術者の採用・配属の実施、女性技術者管理職や管理職候補の育成など、女性技術者の倍増や所属女性技術者の著しい事業貢献の実現などの成果を上げたことが評価されました。

新技術・新製品／グループ会社

Care222®関連

- 東京タワーのチケットカウンター上部に、ウシオの抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置を設置
- アースシネマズ姫路にCare222®搭載装置を10台設置
- Acuity Brands社、北米市場にてCare222®搭載製品の受注開始 ーCare222®搭載製品として世界初のUL認証を取得ー
- 一般社団法人 日本記念日協会にて、2月22日が「Care222®の日」として登録
- クリスティデジタル社がCounterActの量産開始
- 国及び大阪府の「ワクチン・検査パッケージに関する技術実証」に参加 PICK UP
- アドテックエンジニアリング、最新鋭光学系を搭載、高精度ステージを採用した最先端の半導体パッケージ基板向け直描式露光装置（DI）の販売開始 PICK UP
- アドテックエンジニアリング、大宮テクニカルセンター開設
- 670～690nm帯高出力シングルモードレーザーダイオードのサンプル出荷を開始

PICK UP

国及び大阪府の「ワクチン・検査パッケージに関する技術実証」に参加

当社は、国及び大阪府が実施した「ワクチン・検査パッケージに関する技術実証」に参加しました。

本技術実証は、政府の「ワクチン・検査パッケージに関する技術実証」の一環として、大阪府大阪市の繁華街・ミナミで実施されたものであり、「コロナからミナミを復興する商人（あきんど）の会」に参加する飲食店のうち、6店舗の客席に当社の抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置「Care222® iシリーズ」が設置されました。

当社は、2030年に向けた長期ビジョン「光のソリューションカンパニーへ」の達成に向けて、未来の社会課題を「光」を軸としたウシオの事業で解決し、社会的価値の拡大を通じて、経済価値の成長につなげていくことを掲げており、今回の参画はその活動の一環となりました。

ウシオが参画した技術実証について

日程　2021年10月25日～29日の5日間

対象　大阪府大阪市ミナミ地区の「コロナからミナミを復興する商人（あきんど）の会」に参加する12店舗（すべて感染防止認証ゴールドステッカー認証店）のうち、6店舗

技術検証の内容　各店舗の客席にウシオの「Care222® iシリーズ」を設置し、ウイルス対策を実施

PICK UP

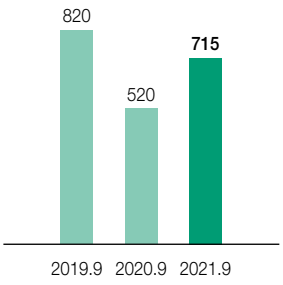
アドテックエンジニアリング、最新鋭光学系を搭載、高精度ステージを採用した最先端の半導体パッケージ基板向け直描式露光装置（DI）の販売開始

今後のIoTや5Gの進展に伴い、大容量かつ高速でのデータ処理などが求められていることから、半導体パッケージのさらなる高密度化（微細化）技術の進展が求められています。これに貢献すべく、ウシオグループの一員である株式会社アドテックエンジニアリングは、最先端の半導体パッケージ基板の製造を手掛けるお客さま向けに、高精度・高解像度を実現した直描式露光装置を2021年7月より順次販売開始します。

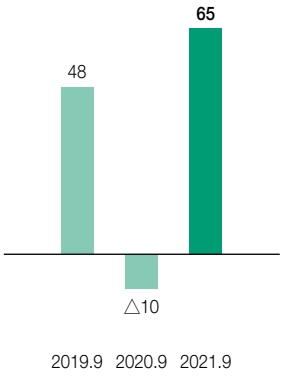
決算の状況

売上高・損益の推移（億円） ※ 第2四半期累計

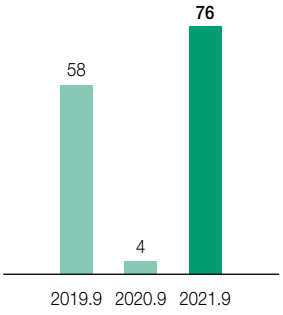
売上高



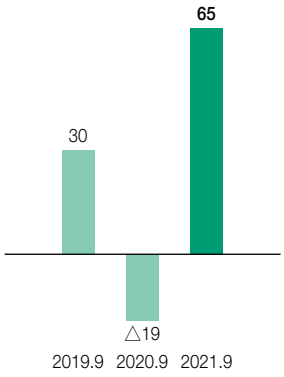
営業損益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純損益



財務担当役員からのメッセージ

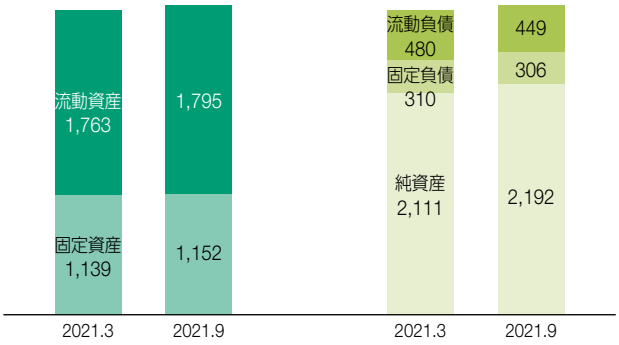
当中期経営計画では、「防ぐ、攻める、束ねる」戦略により、収益構造転換の基礎固めに再挑戦しております。その取り組みの中で、ちょうどその中間地点となる2022年3月期第2四半期の当社連結業績は、前期の新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に加え、「攻める戦略」の積極的な活動や投資により、最先端ICパッケージ基板向け及びプリント基板向け露光装置やEUVリソグラフィマスク検査用EUV光源などの有望製品群が着実に成長いたしました。また、「防ぐ戦略」における抜本的な構造改革、原価低減及び経費コントロールなどの各施策が進展したことにより、前年同期比で大幅な増収増益決算となり、通期の業績予想においても、各利益段階で上方修正を行うなど、着実に各施策の効果が業績に反映されてきております。

これは、「束ねる戦略」の「連峰経営」における「自立」から「連帯」へのシフトチェンジによる全体パフォーマンスの最適化が進展した結果でもあります。引き続き、グループ経営目標管理の高度化、機能のグローバル化、それらを支えるグループITインフラの整備、グループ資金の有効活用などの「束ねる戦略」を推進することにより、今後の中長期での持続的な成長に向け、より強固な経営基盤を構築してまいります。

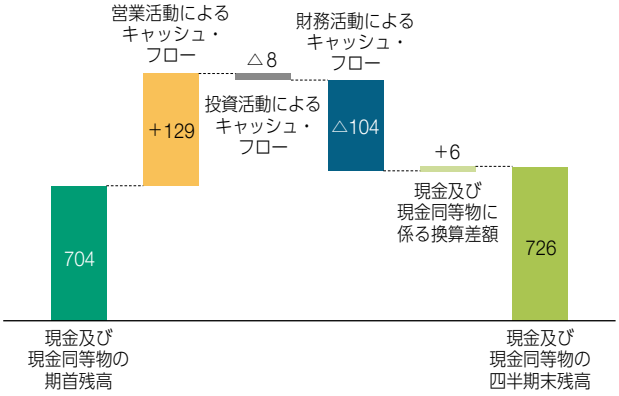
決算情報の詳細は当社ホームページに掲載しています。
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/

貸借対照表、キャッシュ・フロー（億円）

資産の部／負債・純資産の部



キャッシュ・フロー



株主還元については、2022年3月期の配当は、安定かつ継続的な還元方針に則り、前期の1株当たり配当額26円を維持する考えです。また、キャッシュアロケーション方針として、保有するキャッシュ等を当中期経営計画では「防ぐ、攻める、束ねる」の各戦略の実現への原資として積極的に活用していく考えであり、これらの戦略を着実に実行することで、当中期経営計画のさらにその先の持続的な成長を成し遂げ、今後も安定かつ継続的な株主還元を目指してまいります。

取締役
上級執行役員
経営統括本部長　**朝日 崇文**

株主さまとともに

株式の状況（2021年9月30日現在）

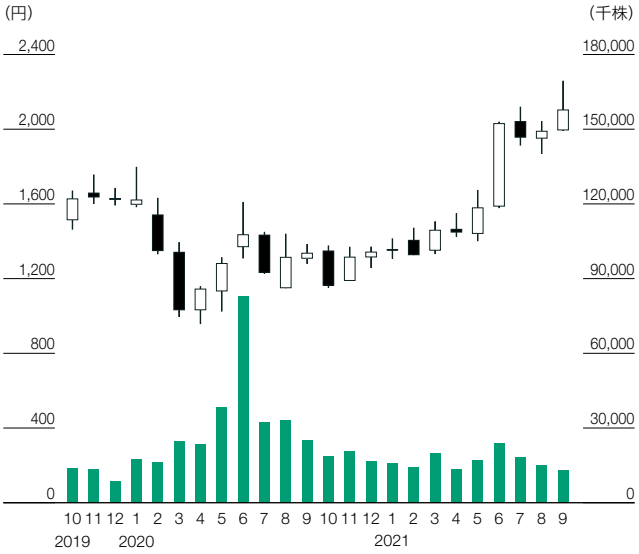
発行済株式総数	127,000,000株
株主数	16,999名

大株主の状況（200万株以上）

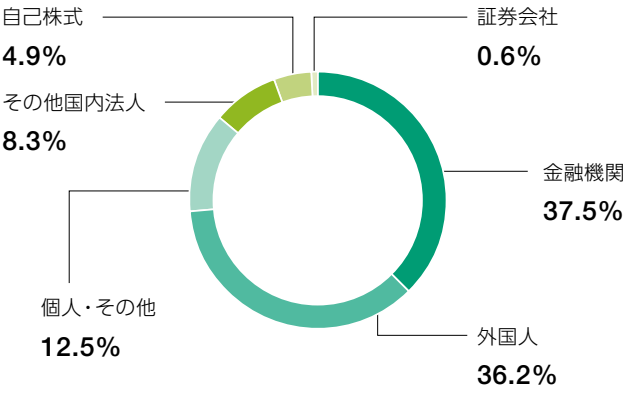
株主名	株式数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	16,294	13.48
株式会社りそな銀行	6,031	4.99
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	5,318	4.40
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.53
株式会社三菱UFJ銀行	4,248	3.51
ビービーエイチルクス フイデリテイ フアンズ グローバル テクノロジー プール	3,396	2.81
牛尾治朗	2,665	2.20
朝日生命保険相互会社	2,450	2.02
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.98
株式会社日本カストディ銀行（信託口7）	2,297	1.90
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	2,254	1.86
GOVERNMENT OF NORWAY	2,189	1.81
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT — CLIENT ACCOUNT	2,064	1.70

※ 上記のほか、自己株式が6,174千株あります。なお、自己株式6,174千株には、役員向け株式報酬信託制度に係る信託が所有する当社株式234千株を含んでおりません。
※ 持株比率は、自己株式6,174千株を控除して計算しております。
※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株価の動き／株式売買高



株式の分布状況



株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※ やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
〈郵便物送付先〉	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈電話照会先〉	**0120-782-031** （フリーダイヤル） 受付時間　9:00～17:00（土日休日を除く）

〈ホームページURL〉
https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

〈よくあるご質問（FAQ）〉
https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 （証券会社の口座に記録された株式）	特別口座 （証券会社に口座のない株式）
• 住所・氏名等の変更 • 単元未満株式の買取請求 • 配当金の受取方法の指定 • 相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
• 一般口座への振替	—	
• 支払期間経過後の配当金	三井住友信託銀行	

会社概要

設立　1964年3月

資本金　19,556,326,316円

役員 (2021年9月30日現在)

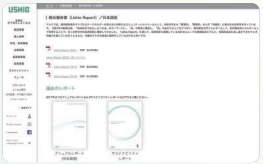
代表取締役社長	内藤　宏治
代表取締役	川村　直樹
取締役	神山　和久
取締役	朝日　崇文
社外取締役	原　良也
社外取締役	金丸　恭文
社外取締役	橘・フクシマ・咲江
社外取締役	佐々木　豊成
取締役(常勤監査等委員)	小林　敦之
社外取締役(監査等委員)	杉原　麗
社外取締役(監査等委員)	須永　明美

従業員数 (2021年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,713名
国内連結子会社	689名
海外連結子会社	2,804名
合計	5,206名

Web

オフィシャルWebサイトもご活用ください



統合報告書(Ushio Report)／日本語版

https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/ushioreport/

投資家情報

社長メッセージや決算資料など、様々な情報を掲載しています。

https://www.ushio.co.jp/jp/ir/

サステナビリティ

環境保全、社会貢献、安全への取り組みなど、様々な情報を掲載しています。

https://www.ushio.co.jp/jp/sustainability/

発行:ウシオ電機株式会社 経営企画部

〒100-8150　東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL:03-5657-1007　FAX:03-5657-1020
https://www.ushio.co.jp

公式facebook
https://www.facebook.com/ushio.group/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C005531 www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK

この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。

2112F①-17,240①